

【天明校区施設一体型義務教育学校施設整備事業者選定審議会 議事録】

| | |
|-----|--|
| 日時 | 令和5年5月29日（月）10:00～12:00 |
| 場所 | SPring 熊本花畑町 7 階会議室 |
| 出席者 | 委員 北園 芳人委員（株式会社 中央土木コンサルタント 北園研究室 室長、熊本大学 名誉教授） 竹内 裕希子委員（熊本大学大学院先端科学研究部 教授）※副委員長 田中 智之委員（熊本大学大学院先端科学研究部 教授）※委員長 藤木 美才委員（ふじき法律事務所 弁護士） 楳木 敏之委員（熊本市立天明中学校長） 内村 智委員（首席審議員兼学校施設課長） |

1. 配布資料

- 次第
- 資料1 天明校区施設一体型義務教育学校基本計画 概要版
- 資料2 天明校区施設一体型義務教育学校基本計画
- 資料3 天明校区施設一体型義務教育学校整備事業に係る実施方針（たたき台）
- 資料4 天明校区施設一体型義務教育学校整備事業 要求水準書（たたき台）

2. 審議内容

1. 開会

- 事務局より、開会のあいさつを行った。

2. 教育長挨拶

- 令和2年度に、教育振興基本計画を策定した。天明地区の4小学校は、単式学級または複式学級であり、今後も児童数の減少が見込まれている。そのような中で、地域の方々に懇談会をつくり、「天明校区における魅力ある学校づくりに関する要望書」をいただき、その中で施設一体型義務教育学校の整備のご提言をいただいた。教育委員会では、この要望書を踏まえ、地域の代表者で構成する新校準備会において議論を重ね、天明校区施設一体型義務教育学校基本計画を取りまとめたところである。本市初めての義務教育学校であり、熊本市の子どもたちや地域の方々が希望を持てるような、魅力ある学校づくりを皆さんと一緒に進めていきたい。本審議会は、地域の方々や子どもたちと一緒に、みんな魅力ある学校づくりをこれから進めていく中の一つであるため、それぞれの専門の分野の見地から忌憚のない、活発なご意見、ご提案をいただきたい。

3. 委員紹介

- 事務局より、委員の紹介を行った。

4. 委員長、副委員長選出

- 委員の互選により、田中委員を委員長、竹内委員を副委員長として選出した。

5. 委員長挨拶

- （田中委員長）熊本市として初めての施設一体型義務教育学校であり、さらに、地域といかに繋がるか、学校としていかに特色を出すか、一つのモデルケースになるため、それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただき、審議できればと思う。

- (竹内副委員長) 防災において、学校は地域の拠点であり、地域の方の拠り所であると、被災された方やその時学校に関わられた方々は実感されていることと思う。この中で、新たに天明校区に学校をつくるということについて、地域の方の期待もあり、学校の先生方も初めてのことで取り組まれることもたくさんあると思われる。初めての義務教育学校となるが、先進的な防災の場にもなればと思う。

6. 議事 (資料 1~4)

(1) 事務局説明

- (田中委員長) 事務局に事業の説明を求めた。
- (事務局) 資料 1、資料 2 に基づき、事業の説明を行った。
- (北園委員) 資料 1 の 4 ページに DB 方式と記載があるが、設計・施工一括で 1 社に発注するということか。
(田中委員長) JV (共同企業体) の場合もある。
- (田中委員長) 資料 1 の 4 ページに建物の絶対高さが 10m と記載があるが、校舎を 4 階建てとした場合、10m 以内におさめるのは厳しいのではないか。
(事務局) 関係部局と協議し、義務教育学校が避難所機能を有することから、市として 4 階建てを建てる必要性を整理し、10m を超えてもよいとの判断を得ている。
(田中委員長) なぜ校舎だけ建物高さが高いかと、地域から問われる可能性もあるため、説明できるようにしておいたほうがよい。
- (竹内副委員長) 建物高さの上限はあるか。
(事務局) 上限についての直接的な議論はしておらず、3 階まで浸水する恐れがあるため、4 階建てとしている。避難所機能強化として 5 階建て以上がよいかどうかは議論していないが、4 階建てで十分に対応できると考えている。また、周辺農地等への日影の影響があることが判明したため、4 階建て校舎とし、ある程度建物をコンパクトにすれば、それらへの影響がクリアできるという整理を行っている。
(田中委員長) 建蔽率、容積率、斜線制限等の法的な規制があるため、建物高さはある程度決まってくる部分もある。
(竹内副委員長) 4 階建てとした場合に、浸水しないエリアを確保できるのかが懸念される。
- (藤木委員) 避難人数の考え方はあるか。
(事務局) 事業者が選定されると、来年度以降の設計段階で定まってくると考えている。高潮の最大高さは 10m であり、高潮の場合は事前避難が前提であることから、校舎 4 階には十分避難できると考えており、詳細は設計段階で整理をしていく。ただし、実際は 50cm~1m 程度の浸水が回数として多いと想定されるため、地震も含めて避難所として有効に使える施設として、体育館や武道場を 2 階以上に設置することとしている。また、職員室も 2 階以上に配置するのが適切ではないかと考えている。最終的には、避難可能人数を公表したい。
(田中委員長) 想定避難人数と実際に避難可能な人数の整理はこれからか。
(事務局) 2 回目以降の審議で、現時点の想定をお出しする。
- (北園委員) 浸水高さが 5~10m であると、2 階は浸水するが、避難所として使用する室を 3 階以上としなくてよいか。
(事務局) 災害によるが、最低でも 2 階以上に避難所機能を設けるべきと考えている。
- (内村委員) ハザードマップについて、高潮における L2 の発生頻度は、500 年から数千年に 1 度の想定である。また、浸水高さは、5~10m と倍近くの数値の違いがあるが、県に問い合わせたところ、県は L2 の浸水高さは 6.6m と想定しているとのことであった。文部科学省では、1000 年に一度の L2 に施設を対応させるのは、合理性に欠けるという意見もでている。50 年に 1 度や 100 年に 1 度など、どの頻度にポイントに置くべきか、本審議会で議論していきたい。

(2) 実施方針 (たたき台) に関する意見交換

(3) 要求水準書 (たたき台) に関する意見交換

- (田中委員長) 事務局に実施方針(たたき台)及び要求水準書(たたき台)の説明を求めた。
- (事務局) 資料3及び資料4に基づき、説明を行った。
- (北園委員) 資料3の3ページ及び資料4の3ページに、事前調査業務に振動測定等と記載があるが、振動だけでなく騒音も追加したほうがよい。
(事務局) 資料3及び資料4の記載を修正する。
- (竹内副委員長) 資料3の12ページの施設の概要に、夜間避難時に使用できる屋外階段やスロープなどが含まれていないが、想定はあるか。
(事務局) 資料4の40ページに、屋外階段の設置を記載している。スロープの設置は、記載していない。
(竹内副委員長) 平常時だけでなく、非常時の動線についても記載いただきたい。
- (竹内副委員長) 全体の浸水を免れることは難しいが、地盤の嵩上げは検討したか。また、現状嵩上げの想定はあるか。
(事務局) 嵩上げの検討を行ったが、軟弱地盤の平地であることや、近隣への日影等も考慮し、1階は浸水することを前提とした計画が現実的ということとなった。
(竹内副委員長) 1階は浸水を許容する前提か。
(田中委員長) 嵩上げを実施するかは、工期と事業費の中で、事業者に提案を求めるのがよいかと考える。
(内村委員) 嵩上げをすることは、バリアフリーの考え方と相反する。日常的な利便性を含めて検討すべきであり、事業者から提案を求めるのがよいと考える。
(竹内副委員長) 東日本大震災の時の浸水想定内での学校の在り方で参考になるものがあると思われるため、事業者にはそれも踏まえて提案いただきたい。
- (北園委員) 資料3の14ページ、設計業務と建設業務とで、業務実施企業の参加資格要件が異なるのが違うのはなぜか。
(事務局) 共同企業体となる場合、設計業務と建設業務が別企業となるため、異なる基準としている。
(北園委員) 設計業務と建設業務とで、参加資格要件を変えてよいということか。
(事務局) お見込みのとおりである。
- (藤木委員) 資料4の22ページ、回転式の手動水洗について、蛇口を回す力が弱い児童・生徒等もいるが、どのようなものを想定しているか。
(事務局) 手で蛇口のハンドルを回すものを想定している。メンテナンス性を考慮し、現状と同様の回転式としているが、最終的にどこまで具体的な仕様を、要求水準書に記載するかは検討中である。
(内村委員) 現状として、回転式の蛇口が多いが、各水洗い場に1箇所、手が不自由の方が使えるものを設けている。感染症も考慮し、非接触のものを1箇所付けるという選択肢もあるかと思われる。自動水栓が10年程度で故障し取り換え、1台あたり数万円かかるため、メンテナンス性も考慮した提案をいただきたい。
(田中委員長) 細かい記載内容は、検討したほうがよい。
- (藤木委員) 資料4の38ページ、職員・来客用トイレの男性トイレや児童・生徒用トイレにも擬音装置を設置してはどうか。バリアフリートイレは見えやすいところにあると、本来使用したい方が使いたくても使えないという状況もあるがどう考えているか。
(内村委員) 配置関係を考慮する旨を、要求水準書に記載したい。
- (北園委員) 資料4の12ページの施設の概要に、駐車場55台以上、想定職員数が50人と記載があり、来客用駐車場は5台となるが、もう少し来客用が必要ないか。
(事務局) 給食調理場跡地も駐車場として使えるように考えている。
(北園委員) 給食調理場跡地整備の予算は、本事業と別か。
(事務局) 本事業の予算内である。
- (北園委員) 資料4の15ページ(k)「将来の学級数増加への対応として…」、資料4の25ページ(j)の「将来の児童・生徒数の減少等を見据え…」と記載があるが、増加と減少で矛盾があるのではないか。
(榎木委員) 子どもが減っていても、特別支援学級の数が増えることもあり得るので、それがわ

かるような記載とするほうがよい。

(田中委員長)「将来対応として」という表現等を検討いただきたい。

- (楳木委員) 資料4の40ページに、廊下などに、児童・生徒の多様な活動に利用できる設えを提案することと記載があるが、授業時間は学びの空間として使っている事例もあり、学習空間に使えるような提案をいただくような表現が入るといい。

(事務局) 他事例でも、学習などで活用されているといったご意見をいただいている。表現は検討し、提案いただけるような記載とする。

(田中委員長) 廊下・階段ではなく、共用部全体にかかる記載でもよいかと思われる。

- (田中委員長) 資料4の30ページ、普通教室は南向きを基本とすると記載があるが、山鹿小学校の場合、低学年は南向き、高学年は北向きの安定した採光としている。9年間飽きない環境も重要であるので、画一的な空間とならないような工夫も必要である。「良好な採光を確保すること」のみの記載でよいのではないか。

(事務局) 記載方法を検討する。

- (田中委員長) 地域開放とセキュリティをどう両立するかが重要なテーマである。資料4 設計業務の1. 設計業務における基本的な考え方に項目を建てることで、事業者へのメッセージになると思われる。

(事務局) 『地域に開かれた学校』を打ち出しており、それを踏まえた提案が重要である。いただいたご意見のとおり、セキュリティの考え方の項目を追加する方向で検討する。

7. その他

- (事務局) 今後のスケジュールについて、第2回審議会は、6/26(月) 10:00~12:00にて開催する。第3回審議会は10月頃、第4回審議会は12月頃を予定している。なお、第2回審議会以降は、非公開とする。

8. 閉会

- 事務局より、閉会の挨拶を行った。

以上